

「学ぶ」「鍛える」「豊かな心」



かわぐち

地域運営学校「コミュニティかわぐち」

地域運営学校

八王子市立川口中学校

学校だより 第4号

令和8年7月2日発行

TEL 042-654-2485



『 夢に向かって歩み続けるということ 』

校長 寺沢 亮

先日の6月30日(火)、午前2時という深夜にもかかわらず、私はテレビの前に釘付けになってサッカーワールドカップ日本代表を応援していました。きっと皆さんの家庭でも、同時刻に熱い声援を送っていたのではないのでしょうか。それほどまでに、日本代表が強豪ブラジルを相手に見せてくれた戦いは、素晴らしいものでした。

前半、佐野選手の見事な先制ゴールが決まった瞬間には、深夜にもかかわらず思わず大声を出してしまいました。1-0のリードで折り返したときは、ブラジルに勝てるかもしれないと日本国民の誰もが思ったはずですが、そこは百戦錬磨の世界の壁、ブラジルでした。後半に入ると戦術を巧みに変えてきました。そして、同点に追いつかれると、アディショナルタイムに痛烈な勝ち越し点を決められ、日本は惜しくも敗退となりました。

最後まで諦めずに走りきった日本代表の姿に、私は深く感動しました。しかし、本当に胸を打たれたのは試合が終わった後のことです。今回の代表チームには、久保選手や三笥選手といった、攻撃の主軸である主力メンバーがけがで出場できないという大きな不運がありました。しかし、選手たちはそのような言い訳を一切口にしませんでした。世界の強豪に善戦したという結果に満足することもなく、試合直後のインタビューでは自らのプレーを厳しく反省し、ブラジルとの実力差を真摯に受け止めていました。悔しさをにじませながらも、環境や不運のせいせず、冷静に自分たちのプレーを見つめ、次を見据える姿に、私は真のサムライスピリッツを見ました。4年後、スペイン・ポルトガル・モロッコで行われる2030ワールドカップでは、日本代表がどのようなチームに進化し、どのように活躍するのか、今から本当に楽しみです。

今でこそ日本中を熱狂させるサッカーですが、私が小さかった頃は、日本ではまだマイナーなスポーツの1つでした。私の故郷である青森では、冬の体育の授業で、一面の雪の上で長靴を履いてサッカーをしていたものです。ポジションや作戦をまったく考えない、ボールに全員が群がるとんでもないサッカーをしていました。その後、漫画「キャプテン翼」の大ヒットをきっかけにサッカーファンが爆発的に増え、長い年月をかけてサッカーは日本のメジャースポーツへと発展していきました。

しかし、その歩みは決して順風満帆だったわけではありません。日本が初めてワールドカップの予選に挑戦したのは、今から遙か昔、1954年のスイス大会予選でした。そこから、どうしても本選に出場できない苦しい時代が長く続きました。

その象徴とも言えるのが、今でも語り継がれる1993年の「ドーハの悲劇」です。日本初の本格的なプロリーグ(Jリーグ)が華々しくスタートし、日本中がサッカーの熱気に包まれたまさにその年、アメリカ大会のアジア最終予選が行われました。勝てば初の本選への切符を手に入れるはずだった最終イラク戦です。今回のブラジル戦と同じように、試合終了間際のアディショナルタイムに同点ゴールを許し、目前で夢が断たれました。ピッチに崩れ落ちる選手たちの姿を見て、日本国民みんなが涙を流し、絶望を味わった大事件でした。

1954年の初挑戦から、1998年のフランス大会で悲願の本選初出場を果たすまで、日本は実に44年もの歳月を費やし、12回目の挑戦でようやくその扉を開けたのです。

「石の上にも三年」ということわざがありますが、Jリーグ発足から数えても今年で34年、ワールドカップ初挑戦から数えれば70年以上の歳月が流れています。日本のサッカーがここまで強くなり、あのブラジルをあと一歩のところまで追い詰めるレベルに達したことは、本当に感慨深いものがあります。あのドーハの悲劇をはじめとするたくさんの失敗、たくさんの外国人コーチから学んで、何世代にもわたり、こつこつと地道な努力を積み重ねてきた結果が今に繋がっています。「本物の力を身に付ける」ということには、それだけの時間と絶え間ない努力が必要であることを、改めて教えられた気がします。

↓

生徒の皆さんは今、自分の夢や希望に向かってしっかりと歩んでいるでしょうか。

日本のサッカーが、主力の不在や組み合わせの不利を言い訳にせず、「ドーハの悲劇」という屈辱を乗り越えて強くなったように、何かを成し遂げるためには、必ず多くの失敗や悔しい経験があります。大切なのは、失敗や逆境に直面したときに、自分自身の弱さを見つめ、反省し、そこからどう立ち上がるかです。他人や環境のせいせず、失敗を恐れずに挑戦し、何が足りないかを真摯に振り返ることで、人間は確実に、そして大きく成長することができます。

皆さんがそれぞれの目標に向かって、一步一步こつこつと努力を続けていけるよう、私たちは、いつでも皆さんを応援しています。焦らず、腐らず、前向きに自分の可能性を信じて進んでいきましょう。皆さんの将来は希望に満ちあふれています。

【学校からのお知らせ】 校内別室について

本校では、主に不登校の状態にある生徒やそれに準ずる生徒が、学校とのつながりを保ちながら安心して過ごせる居場所として、「別室（登校支援室）」を設置し、開室しております。生徒一人一人に寄り添い、学校生活への復帰に向けたサポートを行うため、以下のように運営しています。

設置場所：東校舎1階 第2視聴覚室

開室時間：月曜日～金曜日 13:00～15:00

活動内容：落ち着いた環境の中で、それぞれのペースに応じた自主学習や、タブレット端末を活用したりリモート授業などを行っています。

※利用にあたっては、生徒の状況やご家庭の意向を踏まえ、校内委員会での協議を経て個別に案内・決定を行っております。

【不登校をテーマとした保護者サロン】

八王子市教育委員会では不登校の子どもたちを支援するために、保護者対象の講演会を実施しています。講演の中で小グループに分かれ、参加者の皆さん同士で日頃感じている思いや悩みを語り合う時間も予定しています。どうぞお気軽にご参加ください。

- 1 対象 市内在住・在学の小・中学生の保護者
- 2 日時 令和8年8月24日（月） 午前10時から午後12時30分
- 3 会場 八王子市若者総合相談センター（八王子市東町3-10 山善ビル4階）
- 4 内容 講演 「不登校の子どもたちの義務教育終了後の進路」
講師 八王子市スクールソーシャルワーカー
- 5 定員 40名(先着順)
- 6 受付開始日 令和8年8月1日（土）
こちらの2次元コードからお申し込みください。
- 7 その他 会場に駐車スペースはありません。近隣の有料駐車場をご利用ください。
- 8 問合せ 高尾山学園内 教育指導課登校支援担当電話：042-663-3216



当面の予定

※事情により変更の場合があります。



7/1	水	小中一貫教育の日（会場：川口中）	16	木	宿泊学習（4組）
2	木		17	金	宿泊学習（4組）
3	金	学校説明会（R9新入生保護者対象）	18	土	
4	土		19	日	
5	日		20	月	海の日
6	月	専門委員会	21	火	
7	火		22	水	大掃除
8	水		23	木	終業式 ※この日まで給食があります
9	木		24	金	夏季休業日始 三者面談期間始（7/30まで）
10	金	保護者会（全学年）14:00～	8/10（月）～8/17（月）は学校閉庁日となり、職員不在です。		
11	土				
12	日				
13	月	生徒会朝礼			
14	火		8/27	木	2学期始業式
15	水	避難訓練	28	金	給食始 引き取り訓練 ※この日から給食が始まります